

第14回静岡県看護学会 質問に対する回答（未回答分）

演題：第IV-13

演題名：AYA世代の終末期にある利用者と家族の希望を叶える看護実践

回答者：静岡県看護協会訪問看護ステーションいわた 福田弘子様

【質問】

「本人への予後は知らせてない」とのことでしたが、それは家族の希望で知らせていなかったのでしょうか。

【回答】

ご両親の希望でした。

【質問】

ご本人は予後について告知されていない中でも、なんとなく予後を察知していたところはあったのでしょうか

【回答】

一過性の息苦しさが数回ありましたので感じていたと思います。家族がずっとそばについておられたことが一番の安心感につながっていたと思います。

演題：第IV群-15

演題名：切除不能下咽頭がん患者に対する高齢者の特徴を活かした気管カニューレと胃瘻管理のセルフケア支援

回答者：静岡県立静岡がんセンター 坂はるな様

【質問】

自施設では、同じような症例で、自己管理されている患者がほぼいない。セルフケアを指導により獲得できる患者は他にもいるのか？この症例が特別な方なのか？

指導によってセルフケアが可能なら、自施設でもトライできるかもと思い、お伺いしたい。

【回答】

当病棟では、指導をすることでセルフケアを獲得できる患者は他にもいます。確かに、全ての患者が本症例と同じように家族の協力を得ながら全ての手技を円滑に習得できるわけではありませんが、患者の特徴や理解度に合わせた指導、成功体験を積み重ねた指導によってセルフケア獲得に至る可能性はあると考えています。

患者をアセスメントして効果的な関わり方や指導次第ではセルフケア獲得の可能性はあるのではないかと考えます。